

素人でもできる「危ない会社の見分け方」
—ワールドインベストメント未公開株詐欺事件—

2019/4/5 高市幸男

1. 事件の概要

2007年2月20日、愛知県警は、医薬品メーカー「アース製薬」などの未公開株が違法に販売された証券取引法違反事件で、未公開株を「上場する」「値上がり確実」と偽って販売し、顧客から代金をだまし取った詐欺容疑で、東京都中央区の「ワールドインベストメント」社長橋本誠一容疑者（58）、元常務細谷一弘容疑者（59）、元取締役営業本部長高野康民容疑者（71）、ら同社の元幹部計5人を、逮捕した。

同社は証券取引業の登録がないのに、2005年頃からアース製薬や北海道帯広市の採掘会社「ジャパン・レア・アーツ」などの未公開株を販売し、2006年までに合計約33億円を売り上げたものと見られている。ジャパン・レア・アーツは「貴重な鉱石を扱う会社で、上場後の初値は80万～100万円」などと偽り、実体のないアーツ社の株式を1株35万円で販売していた。

未公開株の仕入れは、橋本、細谷両容疑者が担当し、ジャパン社の株式は同社から直接購入していた。他の11銘柄の一部はブローカーを通じて入手していた。2006年2月、県警が自宅捜索したあと、営業ができなくなったため幹部らは退社。直後に、高野容疑者ら3人は「ジャパン・レア・アーツ東京」を設立し、主にジャパン・レア・アーツの株式を販売していた。

「ジャパン・レア・アーツ」の会長清水彰治被告（68）も、詐欺罪で起訴、逮捕された。

更に、2007年5月、東京の食料輸入販売会社「田村」の社長田村泰男容疑者（65）、田村とワールドインベストメント社を仲介した東京都杉並区南荻窪のブローカー佳山昌史容疑者（63）が逮捕された。橋本容疑者と田村容疑者らは、実際には上場する予定のない「田村」の株式が、近い将来上場されて値上がり確実であるかのように装い、2006年1月ごろ、3人に対して1株80万円で計5株、400万円をワールドインベストメント社の口座に振り込ませて、だまし取った。

「田村」は、ホームページに「2005年の売上高1兆3,800億円」と記載しているほか、海外に系列会社を持つ世界規模の超優良企業を装っており、橋本容疑者らは「公開予想価格125万円」などと銘打って、最低でも1株45万円の利益が出るようだまして販売、80人から約1億2千万円をだまし取っていた。

2. リスクの把握

誰でも入手できる商業登記から、当社及び関連会社のリスクを検証する。

(1) ワールドインベストメント(株)

当社の商業登記簿の推移は次の通りである。

年月日	社名	本社所在地	資本金 (万円)	業種 (事業目的)	代表者
1974/7/2	(株)雅叙園観光デベロップメント	千代田区永田町	4,800	ゴルフ場、ホテル経営	星子幹夫
2000/7/10	↓	↓	↓	↓	↓
2000/7/15	日本チャンピオンマイクロエレクトロニクス(株)	千代田区神田和泉町		電子部品・コンピューター販売	向谷良夫
2002/5/31	↓	↓	↓	↓	↓
2004/5/31	ワールドインベストメント(株)	江戸川区中葛西		ゴルフ会員権販売、有価証券保有	橋本誠一
2005/1/21	↓	↓	↓	(有価証券の保有・運用を削除)	↓
2005/1/27	↓	中央区京橋	↓	↓	↓
2006/1/31	↓	↓	↓	(有価証券の保有・運用を追加)	↓

当社の前身は、日本チャンピオンマイクロエレクトロニクス(株) (電子部品販売業、向谷良夫社長)、その前は(株)雅叙園観光デベロップメント (ゴルフ場・ホテル経営、星子幹夫社長) であり、本社所在地、業務内容、代表者の全てが変更され、設立から継続しているのは資本金のみである。

1974/7/2 設立の(株)雅叙園観光デベロップメントは 1992/7 倒産しており、その後商業登記が売買され、日本チャンピオンマイクロエレクトロニクス(株)を経て、当社に至ったもので、設立年月日及び資本金は全く評価できるものではない。

休眠会社を買い取るのは、新規に会社を設立するより安価にできること、設立を古く、また資本金を大きく見せることができることから、詐欺会社がよく行う手法であり、極めて要注意の商業登記である。

(2) (株)ジャパン・レア・アーツ東京

同社の商業登記の推移は次の通りである。

年月日	社名	本社所在地	資本金 (万円)	業種 (事業目的)	代表者
1989/2/22	ティール・エム・エス(株)	中央区築地	6,000	農産物・水産物・畜産物販売・輸出入	田邊昌彦
2001/6/30	↓	↓	↓	↓	原 克
2002/2/25	ショッククルーズ(株)	中央区日本橋		金融業	島川英二
2002/3/12	↓	新宿区荒木町		↓	↓
2004/7/31	(株)日商ロジスティクス協会	中央区日本橋浜町		全国ロジスティクス協同組合員に対する商品販売・サービス	↓
2006/2/27	(株)ジャパン・レア・アーツ東京	↓	↓	↓	↓
2006/3/6	↓	中央区日本橋小舟町	↓	↓	↓
2006/8/1	↓	↓	↓	有価証券の売買	↓
2007/1/24	↓	↓	↓	↓	日光 勝

同社は、ティー・エム・エス(株)からショッククルーズ(株)、(株)日商ロジスティクス協会を経て、2006/2/27(株)ジャパン・レア・アーツ東京(現商号)に至っている。事業は、農産物・水産物・畜産物の販売・輸出入から金融業、ロジスティクス協同組合員への商品販売を経て、有価証券の販売(現業)に至っている。よって2006/8/1が当社の実質開業日と思われる。

島川英二氏は、ショッククルーズ(株)から(株)日商ロジスティクス協会、(株)ジャパン・レア・アーツ東京の代表取締役役に継続して就任している。これは、島川氏が登記のみの形式上の代表者であり、それぞれ実質の経営者がいたものと考えられる。これも詐欺会社が、責任回避、逃亡の時間稼ぎのために行う一般的な手法である。

以上、商業登記だけでも、十分リスクが認識できる。

(3) ジャパン・レア・アーツ

株式の発行元である「ジャパン・レア・アーツ」は、北海道帯広市を本社としているものと思われるが、当社の登記を発見することはできなかった。

「貴重な鉱石を扱う会社で、上場後の初値は80万~100万円」と言われる会社が、商業登記もないとは考えられず、僅かの手間で詐欺であることが見抜けたものと言える。

尚、実態のない会社であることが明らかになり、会長清水彰治被告(68)は、詐欺罪で起訴、逮捕された。

(4) 田村

同社のホームページには「2005年の売上高1兆3,800億円、海外に系列会社を持つ世界規模の超優良企業」と記載されていた。しかし、民間信用調査機関の調べによると、従業員16人、売上1億7,500万円だった。とある。

東京商工リサーチの場合、僅か1,200円で入手できる情報であり、これも簡単にその異常性、リスクが把握できた筈である。

また、田村は、1985/1設立、(株)田村総業(食料輸入販売業、田村泰男社長)で、1997/10/21、銀行取引停止処分を受け、倒産している。この点からも同社の公表が如何に出鱈目であったかが分かった筈である。

以上